

月次運用レポート

2012年7月

【利用する投資信託の委託会社】

アライアンス・バーンスタイン株式会社


ALLIANCEBERNSTEIN

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ビーを中核とするアライアンス・バーンスタイン*の日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ビーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ビーとその傘下の関連会社を含みます。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
 - ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
 - ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
 - ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
 - ・ 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
 - ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。
- * 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2012年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2012年7月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、下落し、TOPIX(東証株価指数)は前月末比 4.39%の736.31ポイントで終了しました。
 前半は、6月の米雇用統計が軟調だったことに加え、スペイン国債の利回り上昇など欧州債務問題への警戒感などから下落しました。その後も、円高が進行したことを受けて、企業業績の先行きに対する不安が高まったことなどから下落しました。後半は、ECB(欧州中央銀行)総裁のユーロ防衛に対する積極的な発言などを受け、買い戻されたものの、中旬までの下落を取り戻すには至りませんでした。
 業種別(東証33業種)では、景気悪化の影響を受けにくい陸運業(前月末比+0.90%)が最も上昇した一方、収益力低下が懸念される電気・ガス業(同-21.96%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、上昇しました。前半は、6月の米雇用統計が市場予想を下回り、景気の先行き不透明感が強まったことに加え、南欧国債利回りの上昇などから下落する局面もありましたが、欧米共に金融緩和が期待されたことから値を戻しました。後半は、南欧の国債利回りが一段と上昇したことなどを背景に再度下落しましたが、ECB総裁がユーロ防衛に対する積極的な姿勢を示したことなどから急反発し、NYダウは前月末比+1.00%上昇の13,008.68ドルで終了しました。
 欧州株式市場も、ほぼ米国同様の動きとなりました。後半には、スペインの金融・財政問題への懸念が高まり大幅に下落する局面があったものの、ECBの追加金融緩和への期待や、ECB総裁のユーロ防衛に対する積極的な姿勢を好感し、大幅に上昇しました。市場別騰落率は、英FT100が前月末比+1.15%上昇、仏CAC40が同+2.97%上昇、独DAXが同+5.55%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、前半は、6月の米雇用統計が軟調だったことなどから世界経済の先行き不透明感が強まり、また金融政策決定会合で、日銀による更なる追加金融緩和の可能性を残したことなどから、長期金利は低下(価格は上昇)しました。後半は、スペインの金融・財政問題への懸念が高まり、投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどからさらに金利は低下しました。しかしその後、欧州債務問題に向けた対応が強化されるとの見方が強まったことなどをきっかけに、月末にかけてやや上昇(価格は下落)し、新発10年国債利回りは、0.78%となりました(前月末は0.83%)。
 日銀は、政策金利を据え置き、年0.01%程度を維持しました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

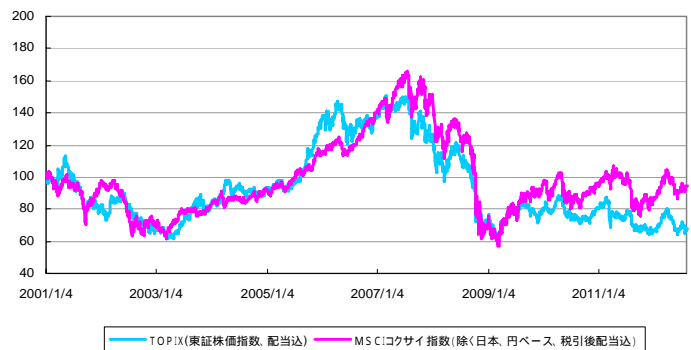
米国債券市場は、前半は、6月の米雇用統計が軟調であったことやスペイン財政問題の深刻化などを背景に、長期金利は低下(価格は上昇)しました。後半は、南欧の国債利回りが大幅に上昇し、安全資産として米国債券が選好されたほか、米国の金融緩和期待が高まったことなどから金利は一段と低下(価格は上昇)しました。月末にかけて、ECB総裁のユーロ防衛に対する積極的な姿勢などから上昇(価格は下落)に転じましたが、米10年国債利回りは、月末は1.468%となりました(前月末は1.645%)。
 欧州債券市場も、ほぼ米国同様の動きとなりました。スペイン財政問題の深刻化や欧州債務問題の政策対応への懸念などによるリスク回避の動きが強まりから低下し、独10年国債利回りは、月末には1.285%となりました(前月末は1.583%)。
 FRB(米連邦準備理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.00~0.25%を維持しました。ECBは政策金利を0.25%引き下げ、年0.75%としました。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、前半は、6月の米雇用統計が軟調であったことや欧州債務問題への懸念が再燃したことからリスク回避の円買い圧力が強まりました。後半も、米国の金融緩和観測が強まったことなどから、米ドルはさらに対円で下落しました。月末には、円は対ドルで前月末比1円14銭(1.44%)円高ドル安の1ドル=78円17銭となりました。
 ユーロ/円相場は、欧州債務問題への懸念が再燃したことや、ECBが利下げを実施し日欧金利差が縮小したことなどから、ユーロを売る動きが強まり、円高ユーロ安が進行しました。しかし下旬に、ECB総裁のユーロ防衛に対する前向きな発言などからユーロは上昇しました。月末には、円は対ユーロで前月末比2円87銭(2.91%)円高ユーロ安の1ユーロ=95円87銭となりました。

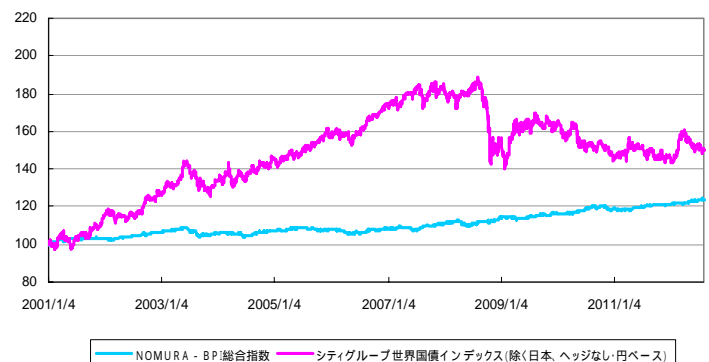
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

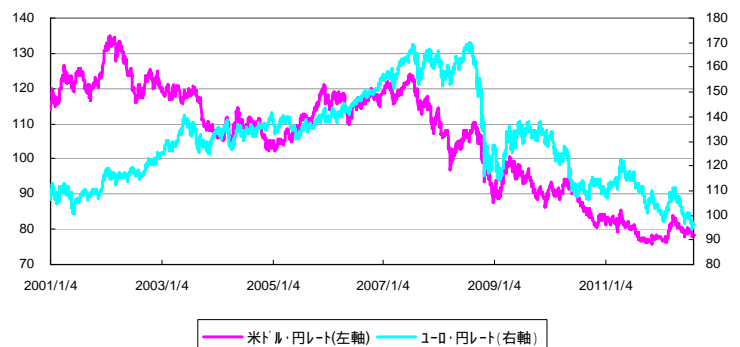


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所:株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2012年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産 配分比率	利 用 す る 投 資 信 託		
		投資信託名	運用方針	委託会社
ライフ プロデュース30	世界 株式 30%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・バランス (保守型)	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の30%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・ バーンスタイン 株式会社
	世界 債券 70%			
ライフ プロデュース50	世界 株式 50%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・バランス (中立型)	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の50%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
	世界 債券 50%			
ライフ プロデュース70	世界 株式 70%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・バランス (積極型)	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の70%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
	世界 債券 30%			
ライフ プロデュース日本株式	日本 株式 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ ジャパン・スタイル・ブレンド・ ファンド - 1	マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。バリュース株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。	
ライフ プロデュース世界株式	世界 株式 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・グロース・ オポチュニティーズ - 3	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
ライフ プロデュース世界債券	世界 債券 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・ボンド・ ファンド - 1	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国の投資適格債(BBB格以上)を投資対象に分散投資と投資対象証券の相対的投資価値分析を基本として、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	

特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

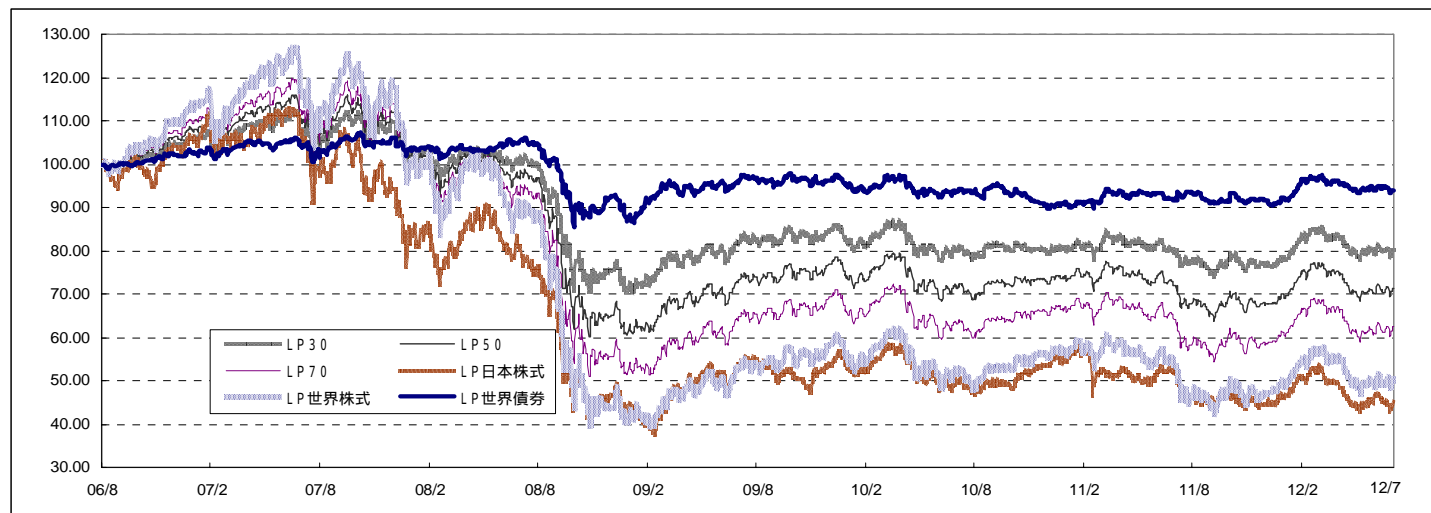
年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2012年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2012年7月 末日現在]

特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフプロデュース30			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2012年7月末	80.11	過去1ヵ月	1.15
2012年6月末	79.20	過去3ヵ月	4.18
2012年5月末	78.84	過去6ヵ月	2.79
2012年4月末	83.61	過去1年	0.69
2012年3月末	84.39	過去3年	2.54
2012年2月末	83.53	設定来	19.88

ライフプロデュース50			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2012年7月末	71.29	過去1ヵ月	1.92
2012年6月末	69.95	過去3ヵ月	5.45
2012年5月末	69.70	過去6ヵ月	3.08
2012年4月末	75.40	過去1年	0.93
2012年3月末	76.28	過去3年	2.86
2012年2月末	75.17	設定来	28.70

ライフプロデュース70			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2012年7月末	62.38	過去1ヵ月	2.71
2012年6月末	60.74	過去3ヵ月	6.75
2012年5月末	60.57	過去6ヵ月	3.32
2012年4月末	66.90	過去1年	2.72
2012年3月末	67.83	過去3年	3.64
2012年2月末	66.56	設定来	37.61

ライフプロデュース日本株式			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2012年7月末	44.65	過去1ヵ月	4.08
2012年6月末	46.55	過去3ヵ月	9.36
2012年5月末	44.21	過去6ヵ月	2.99
2012年4月末	49.26	過去1年	13.52
2012年3月末	52.38	過去3年	17.00
2012年2月末	50.82	設定来	55.34

ライフプロデュース世界株式			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2012年7月末	50.57	過去1ヵ月	3.87
2012年6月末	48.68	過去3ヵ月	8.74
2012年5月末	48.63	過去6ヵ月	3.53
2012年4月末	55.41	過去1年	5.66
2012年3月末	56.36	過去3年	5.20
2012年2月末	54.96	設定来	49.43

ライフプロデュース世界債券			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2012年7月末	93.89	過去1ヵ月	0.02
2012年6月末	93.88	過去3ヵ月	2.36
2012年5月末	93.40	過去6ヵ月	2.16
2012年4月末	96.16	過去1年	2.56
2012年3月末	96.75	過去3年	2.39
2012年2月末	96.40	設定来	6.10

特別勘定のユニットプライスは、2006年8月30日のプライスを100.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページにて各営業日にご確認いただくことができます。

特別勘定資産の内訳

項目	ライフプロデュース30		ライフプロデュース50		ライフプロデュース70	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	1,453	0.2	25,459	0.6	7,528	0.4
其他有価証券	679,609	99.8	4,249,629	99.4	2,066,907	99.6
合計	681,063	100.0	4,275,089	100.0	2,074,436	100.0

項目	ライフプロデュース日本株式		ライフプロデュース世界株式		ライフプロデュース世界債券	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	2,775	0.4	12,690	0.5	4,894	0.4
其他有価証券	779,083	99.6	2,457,325	99.5	1,230,196	99.6
合計	781,858	100.0	2,470,016	100.0	1,235,091	100.0

各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「其他有価証券」の項目に含まれています。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

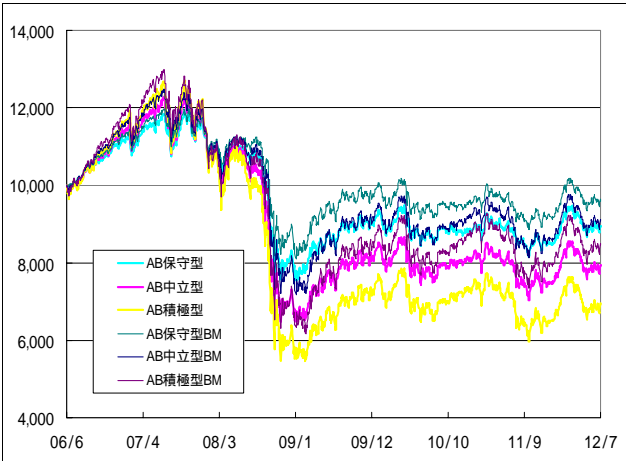
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2012年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース30・50・70 [2012年7月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2006年6月5日)を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
AB保守型	1.30%	3.95%	3.34%	1.72%	0.40%	10.67%
BM	0.83%	3.52%	3.15%	1.58%	0.49%	3.97%
差	0.48%	0.43%	0.19%	0.14%	0.89%	6.70%
AB中立的型	2.10%	5.23%	3.66%	0.01%	0.04%	20.74%
BM	1.48%	4.21%	3.74%	0.85%	1.71%	9.13%
差	0.62%	1.02%	0.08%	0.84%	1.75%	11.61%
AB積極型	2.90%	6.57%	3.88%	1.87%	0.97%	30.72%
BM	2.12%	4.92%	4.28%	0.07%	3.50%	15.22%
差	0.78%	1.65%	0.39%	1.80%	4.47%	15.50%

当投資信託の資産配分比率

	基本資産配分	AB保守型	基本資産配分	AB中立的型	基本資産配分	AB積極型
世界株式Mファンド*	30.00%	30.51%	50.00%	50.93%	70.00%	70.76%
世界債券Mファンド**	70.00%	69.37%	50.00%	49.05%	30.00%	29.19%
短期金融資産等	0.00%	0.13%	0.00%	0.02%	0.00%	0.05%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

* 世界株式Mファンド：アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券

** 世界債券Mファンド：アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は、AB保守型が前月末比+1.30%、AB中立的型が同+2.10%、AB積極型が同+2.90%となりました。一方、ベンチマークの騰落率は、AB保守型が前月末比+0.83%、AB中立的型が同+1.48%、AB積極型が同+2.12%となりました。

ベンチマークとの比較では、世界債券Mファンドにおいて、米国やユーロ圏における残存期間戦略が奏功したほか、ユーロ圏の国債の銘柄選択や社債を組み入れたセクター戦略などがプラスに寄りました。また、世界株式Mファンドの一般消費財・サービス・セクターや金融セクターにおける銘柄選択などもプラスに寄りました。資産配分に関しては、各投資信託ともに基本資産配分を概ね維持しております。

今後も引き続き、世界株式Mファンドおよび世界債券Mファンドへの投資を通じて、実質的に世界の株式と債券へ分散投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ります。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】	LP30 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(保守型)
	LP50 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(中立的型)
	LP70 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(積極型)
【委託会社】	アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】	

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の30%・50%・70%程度を基本とし、一定の規律に従い「バランス」を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

当投資信託は、主として、アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券、アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券に投資します。

- * LP: 特別勘定 ライフプロデュース
- * AB: アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、合成ベンチマークを指します。合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	AB保守型	AB中立的型	AB積極型
MSCIワールド・インデックス ² (税引後配当金込/円ベース)	30.00%	50.00%	70.00%
シティグループ世界国債インデックス (円ベース) ³	70.00%	50.00%	30.00%

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2012年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース日本株式 [2012年7月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2006年6月5日)を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	4.04%	9.28%	2.61%	12.79%	14.65%	52.68%
BM	4.38%	8.32%	1.30%	10.38%	17.51%	48.38%
差	0.34%	0.96%	1.32%	2.41%	2.87%	4.30%

当投資信託の詳細情報

資産配分比率

	基本資産配分	投資信託
バリュース株Mファンド*	50.00%	49.90%
グロース株Mファンド**	50.00%	50.45%
短期金融資産等	0.00%	-0.35%
合計	100.00%	100.00%

業種別構成比率

業種	投資信託
1 小売業	12.07%
2 電気機器	11.61%
3 輸送用機器	10.49%
4 銀行業	7.44%
5 情報・通信業	6.93%
6 化学	6.40%
7 機械	5.52%
8 卸売業	5.08%
9 その他の業種	33.81%
10 現金等	0.66%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	業種	投資信託
1 日産自動車	輸送用機器	4.05%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.95%
3 トヨタ自動車	輸送用機器	3.40%
4 ヤマダ電機	小売業	3.26%
5 日本電信電話	情報・通信業	3.18%
6 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.54%
7 ファナック	電気機器	2.16%
8 ニトリホールディングス	小売業	2.00%
9 日本たばこ産業	食料品	1.92%
10 三菱商事	卸売業	1.87%
合計		28.31%
組入銘柄数		97銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比 4.04%となりました。一方、ベンチマークであるTOPIX(東証株価指数 配当込)の騰落率は、前月末比 4.38%となりました。(以下、バリュース株Mファンドは委託会社独自のセクター別、グロース株MファンドはGICSセクター別で記載。)
ベンチマークとの比較では、バリュース株Mファンドでは、セクター配分はマイナス要因となったものの、銘柄選択はプラスに寄与しました。セクター配分では、テクノロジーのオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。銘柄選択では、公益セクターなどにおける選択がプラスに寄与しました。グロース株Mファンドは、セクター配分、銘柄選択共にプラスに寄与しました。セクター配分では、生活必需品のオーバーウェイトなどがプラスに寄与しました。銘柄選択では、一般消費財・サービス・セクターなどにおける選択がプラスに寄与しました。各マザーファンドに対する基本資産配分を概ね維持しました。
引き続き投資スタイルの分散を行い、バリュース株Mファンドについては、企業のファンダメンタルズ分析に基づく個別銘柄選択を付加価値の源泉とした割安銘柄のボトムアップ投資、グロース株Mファンドについては、綿密な個別企業の調査に基づいて、業績および潜在成長力が市場で過小評価されていると考える成長銘柄を中心に投資し、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

利用する投資信託について

【投資信託名】 通格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンド - 1
【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。バリュース株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス¹⁾を行います。

当投資信託は、主として、
バーンスタイン・日本ストラテジック・バリュース株・マザーファンド受益証券、
アライアンス・日本大型成長株・マザーファンド受益証券 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、TOPIX(東証株価指数 配当込)⁴⁾です。

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

市場別構成比率

市場	投資信託
東京証券取引所第一部	97.28%
大阪証券取引所第一部	2.07%
現金等	0.66%
合計	100.00%

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

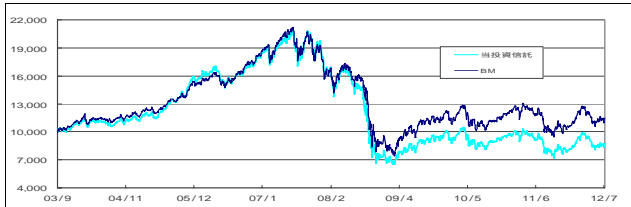
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2012年7月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース世界株式 [2012年7月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2003年9月30日)を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	4.10%	8.56%	4.15%	4.90%	2.63%	12.86%
BM	3.08%	6.03%	4.99%	1.81%	5.37%	14.61%
差	1.02%	2.53%	0.84%	3.09%	7.99%	27.47%

マザーファンド受益証券の詳細情報 国/地域別構成比率

国名	マザーファンド
1 アメリカ	52.05%
2 イギリス	14.02%
3 スイス	5.81%
4 日本	4.96%
5 フランス	4.76%
6 ベルギー	2.56%
7 カナダ	2.27%
8 香港	2.15%
9 その他の国/地域	9.06%
10 現金等	2.36%
合計	100.00%

利用する投資信託について

【投資信託名】 通格機関投資家私募 アライアンス・バースタイン・グローバル・グロース
・オポチュニティーズ - 3
【委託会社】 アライアンス・バースタイン株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

当投資信託は、主としてアライアンス・バースタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2003年9月30日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス²(税引後配当金込/円ベース)です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 情報技術	22.78%
2 一般消費財・サービス	14.95%
3 金融	12.31%
4 生活必需品	11.27%
5 資本財・サービス	11.17%
6 エネルギー	10.64%
7 ヘルスケア	9.07%
8 素材	5.45%
9 その他のセクター	0.00%
10 現金等	2.36%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	業態	マザーファンド
1 アップル	アメリカ	情報技術	パソコン	3.93%
2 ブリティッシュ・アメリカン・タバコ	イギリス	生活必需品	たばこ	3.02%
3 アンハイザー・ブッシュ・インベブ	ベルギー	生活必需品	ビール	2.22%
4 ダナハー	アメリカ	資本財・サービス	工具・通信部品	2.14%
5 ネスレ	スイス	生活必需品	食品・飲料	2.03%
6 VISA	アメリカ	情報技術	クレジットカード	1.87%
7 ウォルト・ディズニー	アメリカ	一般消費財・サービス	テーマパーク、娯楽映画	1.85%
8 グーグル	アメリカ	情報技術	インターネット	1.79%
9 クアルコム	アメリカ	情報技術	通信システム	1.75%
10 オラクル	アメリカ	情報技術	ソフトウェア	1.68%
合計				22.29%
組入銘柄数				114銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+4.10%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIワールド・インデックス(税引後配当金込/円ベース)の騰落率は前月末比+3.08%となりました。

ベンチマークとの比較では、セクター配分はベンチマーク並みだったものの、銘柄選択はプラスに寄与しました。セクター配分では、情報技術のオーバーウェイトなどがマイナス要因となったものの、公益事業のアンダーウェイトなどはプラスに寄与しました。また、一般消費財・サービスや金融セクターにおける銘柄選択がプラス要因となりました。

当投資信託では、引き続き安定した成長が期待でき、健全な財務体質を有しながら、バリュエーションが妥当な水準にある銘柄を中心に情報技術セクターのオーバーウェイトを維持します。消費関連では、一般消費財・サービスや生活必需品をオーバーウェイトとする一方、ヘルスケアはアンダーウェイトとする方針です。金融セクターに関しては、成長及びパフォーマンスへの貢献が期待でき、金融規制による影響を受けにくい新興国の銀行・生保などをオーバーウェイトとし、先進国の銀行・損保などをアンダーウェイトとする方針です。エネルギーや素材関連では、世界経済の成長が再び鈍化するリスクを考慮し、生産量拡大余地があり価格決定力を持つ企業を中心に組入れていく予定です。

今後も、アナリストによる徹底した企業分析を通じて、成長が見込まれ、かつ株価水準が妥当な優良銘柄を選別する方針です。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

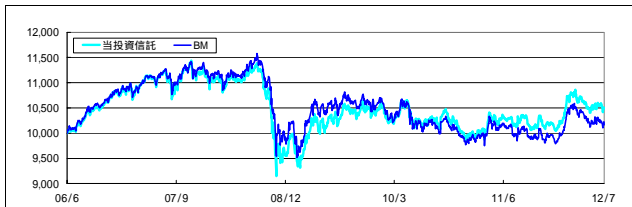
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2012年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース世界債券 [2012年7月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2006年6月5日)を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	0.12%	2.12%	2.68%	3.62%	0.63%	4.86%
BM	0.16%	2.53%	2.18%	2.31%	4.49%	1.61%
差	0.28%	0.41%	0.50%	1.31%	5.12%	3.25%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(円ベース)¹⁾です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

マザーファンド受益証券の詳細情報 国/地域別構成比率

	国名	マザーファンド
1	アメリカ	23.27%
2	日本	17.58%
3	イギリス	9.28%
4	カナダ	6.21%
5	ベルギー	5.65%
6	イタリア	4.77%
7	ドイツ	4.59%
8	オランダ	4.54%
9	その他の国/地域	20.88%
10	現金等	3.23%
合計		100.00%

格付別構成比率

格付	マザーファンド
AAA	56.30%
AA	23.72%
A	7.90%
BBB	8.86%
BB以下	0.00%
現金等	3.23%
合計	100.00%

格付基準:

ムーディーズ社またはスタンダード・アンド・プアーズ(S&P)社のうち、いずれか高いほうを採用しています。

債券種別資産構成比率

債券種別	マザーファンド
1 国債・政府機関債等	87.24%
2 社債	9.53%
3 現金等	3.23%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	日本国債	日本	1.500%	2019年3月20日	Aa3	AA-	4.62%
2	日本国債	日本	1.700%	2017年3月20日	Aa3	AA-	3.99%
3	日本国債	日本	1.500%	2015年9月20日	Aa3	AA-	2.84%
4	イタリア国債	イタリア	4.750%	2017年5月1日	Baa2	BBB+	2.63%
5	オーストリア国債	オーストリア	4.300%	2017年9月15日	Aaa	AA+	2.38%
6	イギリス国債	イギリス	3.750%	2019年9月7日	Aaa	AAA	2.32%
7	カナダ国債	カナダ	4.000%	2016年6月1日	Aaa	AAA	2.19%
8	フィンランド国債	フィンランド	3.875%	2017年9月15日	Aaa	AAA	2.07%
9	オランダ国債	オランダ	4.000%	2018年7月15日	Aaa	AAA	2.07%
10	ベルギー国債	ベルギー	3.750%	2015年9月28日	Aa3	AA	1.95%
合計							27.06%
組入銘柄数							157銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	1.68%
平均クーポン	3.58%
平均残存期間	8.18
実効デュレーション	6.69

「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

「実効デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+0.12%、一方、ベンチマークであるシティグループ世界国債インデックス(円ベース)の騰落率は前月末比-0.16%となりました。ベンチマークとの比較では、マザーファンドにおいて、米国やユーロ圏における残存期間戦略が奏功したほか、ユーロ圏の国債の銘柄選択や社債を組み入れたセクター戦略が主なプラス要因となりました。マザーファンドのポートフォリオでは、米国国債などを買い増した一方、カナダ国債などを一部売却しました。ユーロ圏の国債については、ドイツ国債などを一部売却しました。一方、ベルギー国債などを買い増したほか、フィンランド国債を新規に買い付け、ユーロ圏の国債全体の組入比率を引き上げました。委託会社は、最近発表された経済指標は弱い内容であったものの、各国の中央銀行が金融緩和策を講ずる可能性があり、今後は経済指標が好転すると見えています。2012年後半は、内需の回復にけん引される米国に加え、新興国の回復も世界経済の緩やかな拡大をけん引すると見えています。主要国の国債については、ユーロ圏の国債についてはやや慎重な見方をしているほか、日本については相対的な魅力度の観点から組み入れを低めとする方針です。投資適格社債については、企業の財務状況は健全であり、収益力も高いと判断していることなどから、慎重ながらも組入比率を引き上げることを検討しています。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

年金払定期付積立型変額保険

用語説明

- *1 「リバランス」とは、当初決定した資産配分比率に調整することをいいます。
- *2 「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc.が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス(税引後配当金込/円ベース)は、MSCIワールド・インデックス(米ドルベース)をもとに、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて委託会社が円ベースに換算したものです。
- *3 「シティグループ世界国債インデックス(円ベース)」とは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが算出・公表する指数で、1984年12月末日を100として世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均し指数化したものです。
シティグループ世界国債インデックス(円ベース)に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はシティグループ・グローバル・マーケット・インクに帰属します。
- *4 「TOPIX(東証株価指数 配当込)」とは、東京証券取引所第一部に上場されている普通株式全銘柄の浮動株調整後の時価総額を指数化し、配当収益を考慮したインデックスであり、市場全体の動向を反映するものです。TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(以下「東京証券取引所」)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

年金払定期付積立型変額保険のリスク及び諸費用について

【投資リスクについて】

この保険は積立金額、払いもどし金額および満期保険金額などが特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額保険です。特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、株式および公社債の価格変動と為替変動などに伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額や満期保険金額などが払込保険料総額を下回る場合があります。特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

お客様にご負担いただく費用は、危険保険料、各保険契約管理費、および運用関係費の合計額となります。

<第1回の年金の支払事由発生前にかかる費用>

項目	費用	備考
危険保険料	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に、危険保険料率を乗じた金額	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費 (保険料比例部分)	保険料(任意一時払保険料を除く)に対し、 3.00%	各保険料を特別勘定に繰り入れる際、当該保険料から控除して積立金に充当します。
保険契約管理費 (定額部分)	毎月 250円(固定費)	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費 (危険保険金額比例部分)	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に対し、 0.01%/月	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費 (積立金額比例部分)	積立金額に対し、 年率1.00% (1.00%/365日を乗じた金額)	毎日、積立金から控除します。

危険保険料は、危険保険金額が積立金額の変動によって変動すること、また、危険保険料率が被保険者の年齢や性別によって異なることから具体的な数値を記載することができません。危険保険料率について詳しくは、「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額が1,000万円を超える場合、高額割引が適用され、その月の保険契約管理費(危険保険金額比例部分)がお安くなります。ただし、基本年金年額の減額や積立金額の増加などにより、危険保険金額が1,000万円以下となる場合には、高額割引は適用されなくなります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険のリスク及び諸費用について

< 積立金の移転や解約などにかかる費用 >

項目	時期	費用	備考
積立金移転費用	積立金の移転時	[書面による移転申込みの場合] 月1回目1,500円、 2回目以降は1回につき2,300円 ^(*)	毎回の移転について積立金から控除します。
		[インターネットによる移転申込みの場合] 月1回の積立金の移転は無料、 2回目からは1回につき800円 ^(*)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、 2回目からの移転について積立金から控除します。
解約控除	解約時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%~1%を乗じた金額)と危険保険金に対する解約控除額(危険保険金に解約控除率0.50%~0.05%を乗じた金額)の合計額	解約日が契約日より起算して10年未満の場合には、 経過年数に応じて計算した金額を、 解約日の翌営業日の積立金額から控除します。
解約控除	積立金の一部引出時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%~1%を乗じた金額)	一部引出日が契約日より起算して10年未満の場合には、 経過年数に応じて計算した金額を、 一部引出請求金額から控除します。

(*) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行った回数

経過年数については1年未満は切り上げとなります。

無償引出限度額(解約日または一部引出日の前日の積立金額の10%相当額)と同額の積立金額までは上記の積立金に対する解約控除額の計算対象となりません。

ただし、すでに積立金の一部引出が行なわれている場合はその合計額を無償引出限度額から差し引きます。

解約時の払戻し金の支払いに際しては、解約日の属する月に控除すべき危険保険料および保険契約関係費を払いもどし金額から差し引いてお支払いします。

基本年金額の減額、契約の型の変更、保険期間の短縮の際にも、危険保険金額の減額により、危険保険金額に対する解約控除が適用される場合があります。

将来、上記の内容が変更になることがあります。

運用関係の費用

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフプロデュース30 年率0.7770%程度 (税抜年率0.74%程度)	投資信託の純資産額に対して、 毎日積立金から控除します。
		ライフプロデュース50 年率0.8295%程度 (税抜年率0.79%程度)	
		ライフプロデュース70 年率0.8820%程度 (税抜年率0.84%程度)	
		ライフプロデュース日本株式 年率0.8610%程度 (税抜年率0.82%程度)	
		ライフプロデュース世界株式 年率0.8925%程度 (税抜年率0.85%程度)	
		ライフプロデュース世界債券 年率0.5460%程度 (税抜年率0.52%程度)	

運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、

これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。

これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

< 第1回の年金の支払事由発生以後にかかる費用 >

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の1%	年金支払開始日以後、 年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>